

中 浪江中だより

平成28年度 No.24
平成28年
6月27日(月)
浪江中学校
校長 笠井淳一

浪江中学校の教育目標～こんな生徒たちに・・・

- 【教育目標】
- 自ら探求的に学ぶ生徒
 - 礼儀正しく、節度ある生活をする生徒
 - 健康で、安全な生活をする生徒

【重点目標】 **自ら向上する生徒**

職場体験に向けて・・・(2年生)

6月29日(水)・30日(木)、2年生が職場体験を行います。実際の職場での体験を通して、望ましい職業観を身につけ、将来、主体的な職業選択ができるよう意識を高めるとともに、勤労の尊さを直接体験することで、よりよい生き方を目指そうとする意欲の向上につなげていきたいと考えています。



6月16日(木)の総合的な学習の時間に、2年生はお世話になる各事業所等に電話であいさつを行いました。生徒達は緊張しながらも、質問や受け答えをしっかりと行っていました。



【お世話になる事業所等】

- ・文化堂スポーツ
- ・Honda Cars 二本松安達店
- ・西谷さとう農園(佐藤佐市様)
- ・あぶくま高原遊雲の里ファーム(菅野正寿様)

浪江小・津島小の子どもたち ～新聞記事(6月19日)より～

↓みんぽうジュニア新聞の記事



なみえっ子

運動会、浪江町伝統の和太鼓の演奏を披露するなみえっ子たち。5月14日、二本松市

自作の「なみえっ子カルタ」の札を見せてくれた渡部雅晴くん(右)と瀬尾瑠衣菜さん=5月14日、二本松市

クロちゃんが見た被災地

浪江町編(上)

ふるさとを勉強

浪江町は、東日本大震災による津波で大きな被害を受け、その後起きた福島第一原発事故で町全体が避難区域になりました。五年たった今も帰れないまま、避難先でふるさとについて勉強する浪江の小学生たちをたずねました。

運動会では、保護者はもちろん、仮設住宅でくらす浪江の人たちも招待されていました。和太鼓の演奏や、ふるさとの名所にちなんだ一般向け競技もあって「浪江に帰りたい」とうれしそうに話す参加者もいました。

運動会の後、六年の渡部雅晴くん(右)と瀬尾瑠衣菜さん(左)が、ふるさとの名所や名物を札にした「なみえっ子カルタ」を見せてくれました。これは、浪江のことを勉強する「ふるさとなみえ科」の授業で作ったもので、「んだげんちよ」の歌も、この授業から生まれたそうです。

瀬尾さんは「浪江は海がきれい、自然がいっぱい」、渡部くんは「伝統工芸の大堀相馬焼でろくろを回すのがゆめだった」と、五年たった今もわすれない、ふるさとの思い出を話してくれました。

浪江小学校長の遠藤和雄先生は「町の伝統や文化を伝え、避難で散り散りになった人たちをつなぐのがこの学校の役割です」と話していました。

みんなの笑顔がふるさとにもとる日が、一日も早く来るといいですね。(ニコ☆プチモデル・黒坂莉那)

